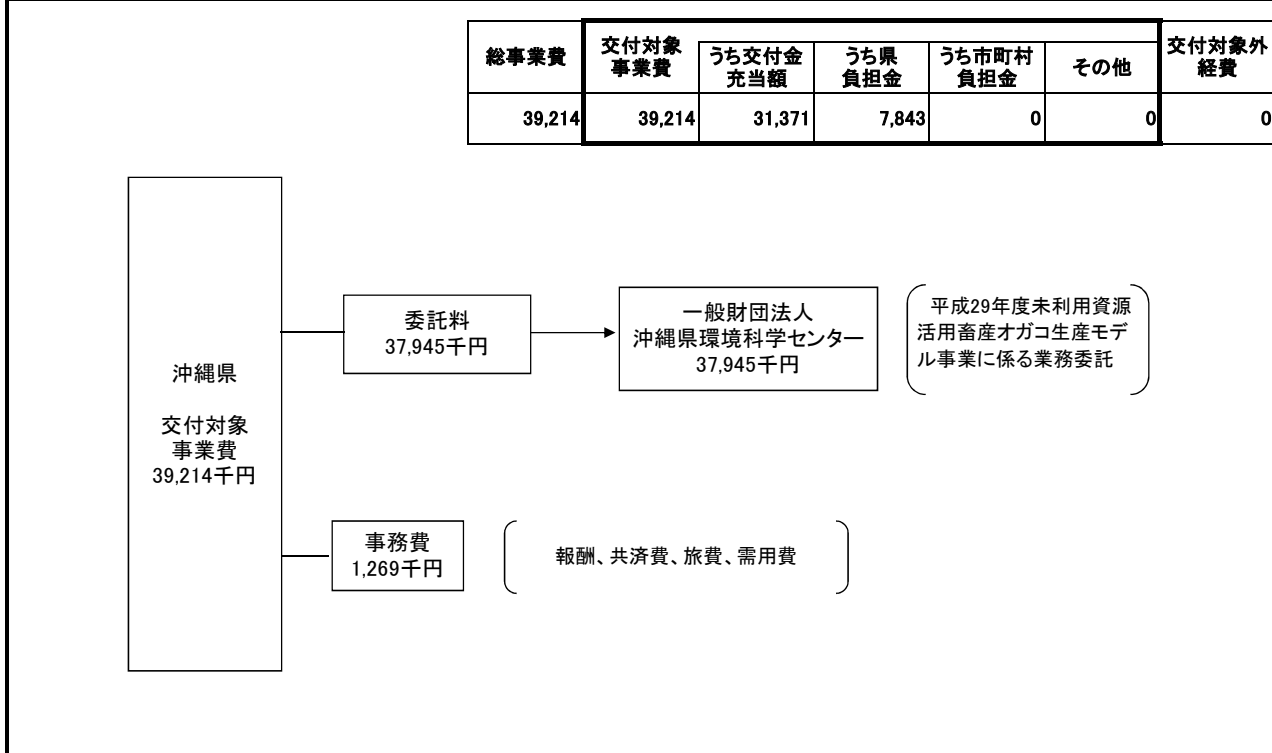


平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	111	未利用資源活用畜産オガコ生産モデル事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア			
担当部署名	農林水産部畜産課	事業実施 (予定)年度	平成 24 ~ 30 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	3Rの推進		
事業内容	畜産環境改善に優れる「オガコ」の安定供給、低コスト化、定品質等の課題を解決するため、堆肥センター等と連携した生産・利用モデルの作成に向けた調査、検討研究などの取組みを実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(平成33年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,820	0	11,458	0	40,077
		(b)予算現額	11,820	0	11,479	0	40,077
		(c)増減額(b-a)	0	0	21	0	0
		(d)前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	11,820	0	11,479	0	40,077
	B.執行済額		11,029	0	11,231	0	39,214
	うち交付金充当額		8,786	0	8,985	0	31,371
	C.次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.3%	#DIV/0!	97.8%	#DIV/0!	97.8%
予算の状況の説明		<p>・平成29年度当初予算において、前年度から増額となっているのは、剪定枝等未利用資源を活用した畜産向けオガコ生産モデル構築に要する経費として委託料を増額したことによるものである。</p> <p>・執行率は97.8%であり、概ね計画的に執行できた。</p>					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	オガコ生産現場での有毒植物混入検査技術の検討	目標	-	-	-	有毒植物混入検査技術の検討	
		実績	-	-	-	有毒植物混入検査技術の検討	
	畜産向け剪定枝オガコ生産モデルの設置	目標	-	-	1箇所	1箇所	
		実績	-	-	0箇所	1箇所	
達成状況説明	<p>・オガコ生産現場において、オガコを採集し、化学分析による有毒植物(キョウチクトウ)の混入検査技術について検討したほか、有毒植物(キョウチクトウ)の混入の有無を確認するための化学分析マニュアルを作成した。</p> <p>・畜産農家が使いやすい吸水性の高い剪定枝オガコを生産するため、粉碎方法の検討やオガコの試作を実施し、畜産向け剪定枝オガコ生産モデルを1箇所設置した。</p>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (一年度)	28年度	28年度	29年度	目標値 (33年度)
	①有毒植物生育状況地図の作成および有毒植物混入検査手法を確立し、報告書を作成	目標	-	-	-	報告書を作成	-
		実績	-	-	-	報告書を作成	-
	②畜産向け剪定枝オガコ生産モデルを1箇所設置し、報告書を作成	目標	-	-	-	報告書を作成	-
		実績	-	-	-	報告書を作成	-
	【H33成果目標】 県内の剪定枝で製造したオガコを利用する養豚農家数		目標				18戸以上
進捗状況説明	<p>①宮古・石垣地域において、有毒植物(キョウチクトウ、ミフクラギ、ソテツ、センダン)の生育状況の現地調査を行い、宮古・石垣地域の有毒植物生育地図の作成するとともに、化学分析及び生物試験による有毒植物混入検査手法を確立し、報告書を作成することができた。</p> <p>②粉碎方法の検討やオガコの試作を行い、畜産向け剪定枝オガコ生産モデルを1箇所設置し、報告書を作成することができた。</p>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	①堆肥化による有毒物質分解物の毒性の有無を判断する確認試験を実施したところ、分解物には毒性が残っていることが確認されたため、剪定枝の搬入前から有毒植物の混入を防止する対策が必要となる。	①剪定枝の搬入前から有毒植物の混入を防止する対策については、剪定枝搬入ルールを検討する。	
	②-1 粉砕した剪定枝は含水率が高いため、オガコの吸水性に課題がある。	②-1 畜産農家が使いやすい吸水性の高い剪定枝オガコを生産するため、オガコの効率的な乾燥方法を検討する。	
	②-2 改良した剪定枝オガコについて、臭気軽減効果や使用感を確認する必要がある。	②-2 剪定枝オガコの環境保全効果及び省労力効果を検証するため、畜産農家で実証試験を行う。	
今後の取り組み方針			
①有害植物の混入を防止するため、剪定枝搬入ルールを検討する。 ②-1 剪定枝オガコの効率的な乾燥方法について検討する。 ②-2 畜産農家において、剪定枝オガコ利用に係る実証試験を行う。			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務の内容および特殊性等から平成27年度公募型プロポーザル方式により選定しており、前年度の実績と蓄えたノウハウを生かし、限られた期間内で円滑に業務を遂行するため、本事業に熟知し必要な業務体制を備えた業者と随意契約を行い、妥当であったと考えている。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	- 受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出に関する書類により確認し適正であった。